

ごみ処理の基本的な考え方について

1. はじめに

一般廃棄物処理基本計画策定にあたっては、ごみを減量・資源化する上流段階から、ごみの処理・処分を行う下流段階までと様々な段階について検討する必要があります。

その中で、本広域としてのごみ処理の基本的な考え方を整理します。

ここでは、「ごみ処理の基本的な考え方」を検討し、提言を行う事とします。

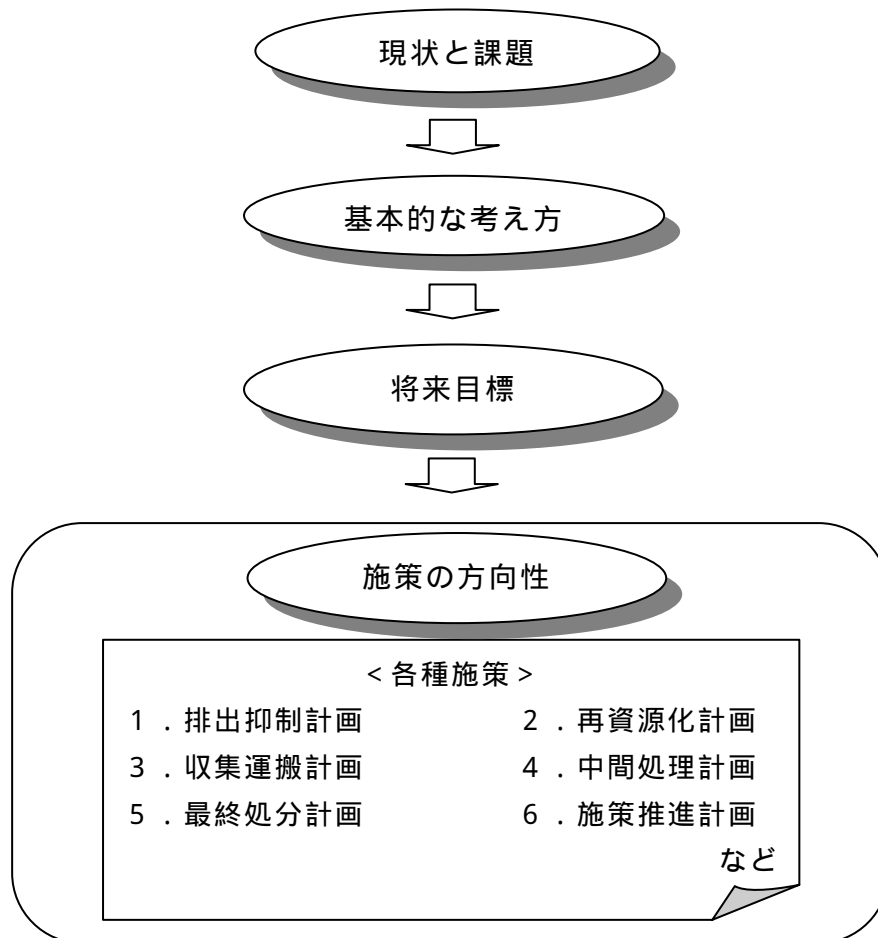


図 一般廃棄物処理基本計画の枠組

2. ごみ処理の基本的な考え方

< 原案 >

塩谷広域行政組合におけるごみ処理にあたっては、大きな目的である環境負荷の低減を目指すとともに、減量化、資源化を推進することにより循環型社会の構築を目指すことが重要です。

そこで、本組合では、環境負荷低減を目指した循環型社会を構築することを目指し、この実現に向けた処理システムを構築します。

基本方針（案）

3R（リデュース、リユース、リサイクル）を前提としたごみ処理システムを構築します。

< 解説 >

適正処理の前段部分であるリデュース（Reduce：排出抑制）、リユース（Reuse：再使用）、リサイクル（Recycle：再生利用）を推進し、中間処理量や最終処分量の削減を図ります。

自区内処理を前提としたごみ処理システムを構築します。

< 解説 >

組合内から発生するごみについては、資源化を含む中間処理から最終処分までを自区内において処理することを目指します。

環境負荷を低減するごみ処理システムを構築します。

< 解説 >

ごみ処理システムの構築に向けては、環境への負荷を極力抑えた方式を選択します。

【その他検討に際してのキーワード】

持続可能

持続的な発展

協働

地球環境保全

未来への継承

効率的な処理

ゼロ・エミッション

みんなが考え行動する社会

住民・事業者・行政の役割分担